

平成29年度

安曇野市 協働事業事例集



平成30年3月

安曇野市 市民生活部 地域づくり課

1 協働事業事例集の趣旨・目的

近年、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、地域の課題や市民のニーズは多様化・複雑化、高度化しています。また、地方分権が進展し、市民が安全・安心に、心豊かに暮らせる地域づくりを進めていくためには、市民や区など自治会、NPO法人などの市民活動団体、企業、教育機関、行政等、特性の異なる主体同士が、お互いの特性の違いを認め合い、対等な関係の中で、それぞれの強みを生かし、弱みを補完し合う「協働」によるまちづくりが求められています。

そのような背景から、安曇野市では、平成26年3月に「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」を策定し、これに基づき、協働を進めるための仕組みづくりに努めており、庁内各部局においては、それぞれ公共サービスの充実や市政の効率化に資する協働事業に積極的に取り組んでいます。

この協働事業事例集では、平成29年度に各部局で協働事業として実施された事業を収集し、掲載しています。「協働」することは目的ではなく、課題解決に向けた手段のひとつです。この事例集が、本市における協働推進の参考となり、それぞれの取り組みがより充実されることを期待して作成するものです。

2 対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

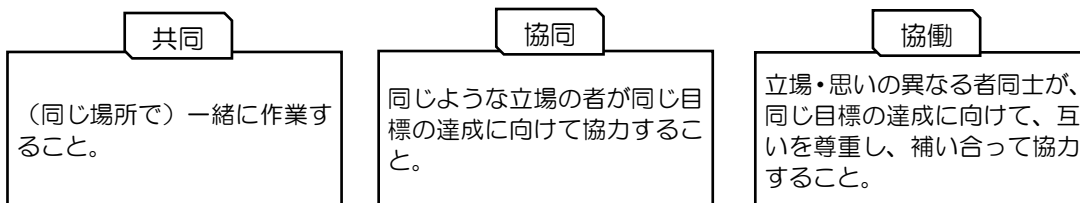
自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）

（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会
NPO、消防団、農業協同組合等

「協働（きょうどう）」ってなんだろう？

「協働」という言葉の意味をご存知ですか？同じ読み方で「共同」や「協同」があります。「協働」は、立場や思いが異なるもの同士が、共通の目的をもち、役割分担によりお互いの不足、弱みを補い合いながら、上下関係ではなく、対等な立場で協力することを言います。

◆3つの「きょうどう」の違い◆



◆なぜ「協働」が必要なの？◆



近年、少子高齢化や人口減少など社会情勢が大きく変化し、また、ライフスタイル、価値観が多様化する中で、日々の暮らしや住環境・自然環境を取り巻く課題も多様化、複雑化し、市民だけ、行政だけでは解決できない複雑な課題が山積しています。そのような課題を解決し、心豊かに幸せに暮らせるまちづくりを実現するためには、まちづくりを行う様々な主体(市民、区など自治会、市民活動団体、企業、教育機関、行政など)が、まず、自分たちでできることは自分たちで行い、できないことはお互いを補い合いながら協力して課題解決を進めていく、「協働」によるまちづくりの推進が必要となります。

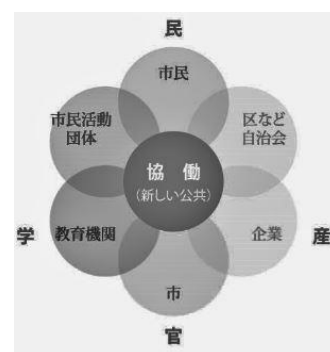
市民の皆さん一人ひとりが行動し、家族や友人、隣近所の方など、お互いに信頼し合い、協力し合い、支え合うことで、「協働」の輪が広がり、安全・安心に暮らしやすいまちづくりが進みます。

◆安曇野市はどのように協働のまちづくりを進めているの？◆

安曇野市では、平成20年度に「市民と行政の協働指針」を策定し、指針に基づき協働推進を図ってきました。しかし、社会情勢が急激に変化する中で、改めて「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(以下、「協働計画」という。)を平成26年3月に策定しました。協働計画では、次の4つの柱を基本方針として、様々な施策を展開しています。

1. 情報の共有(情報の収集、一元化、提供)
2. あらゆる主体の協働に対する理解と人財育成
3. 市民が市政に参画しやすい環境づくり
4. 主体的な市民活動の促進

また、各施策により協働のまちづくりが推進されるように、「推進システム」(推進体制、推進支援)の構築を定めています。



(協働の主体及び領域)

目次


平成29年度実施個別協働事業一覧

| ページ | 事業名 | 協働の相手方 | 事業担当課 |
|-----|--|---|------------------|
| 4 | 安曇野市男女共同参画フォーラム2017 | 安曇野市男女共同参画共同参画フォーラム2017 実行委員会 | 総務部 人権男女共同参画課 |
| 5 | 平成29年度 人権のつどい | 松本人権擁護委員協議会安曇野部会、安曇野市企業人 権教育推進協議会、安曇野市男女共同参画推進会議 | |
| 6 | 多文化共生地域づくり事業 | あづみの国際化ネットワーク(AIN) | |
| 7 | 地域支え合い推進フォーラム | 13団体 協定締結団体 | 福祉部 介護保険課 |
| 8 | あんしんセミナー | 特定非営利活動法人 JAあづみ くらしの助け合いネットワークあんしん | |
| 9 | ほがらか散歩見守り隊 | 特定非営利活動法人 コミュニティケアサポート | |
| 10 | 地域の見守り活動事業 | 古民家デイサービス有明郷 有限会社小林商事 | |
| 11 | 災害時住民支え合いマップ作成研修 | 安曇野市社会福祉協議会 | 福祉部 長寿社会課 |
| 12 | 安曇野環境フェア 2017 | 安曇野環境フェア2017実行委員会 | 市民生活部 環境課 |
| 13 | 歩いて楽しいまちづくりプロジェクト | 潮沢ロマンの会 | |
| 14 | 不用食器リサイクル | 不用食器リサイクル実行委員会 | 市民生活部 廃棄物対策課 |
| 15 | 信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム) | 岩原ひまわりクラブ | 市民生活部 堀金地域課 |
| 16 | ほりがね秋の振興祭り | ほりがね秋の振興祭り実行委員会 | |
| 17 | アルプス花街道 | アルプス花街道実行委員会 | 市民生活部 地域づくり課 |
| 18 | あづみ野祭り | あづみ野祭り実行委員会 | |
| 19 | 光城山1000人SAKURAプロジェクト | 光城山1000人SAKURAプロジェクト | |
| 20 | ～あなたの夢が叶う！？～ 「市民協働ワークショップ」で体感しよう | E・BE・YAあづみ家 | |
| 21 | ガーデンファーム(せんげ畑)ライフを 通じた地域の絆づくり事業 | 安曇野をもっと元気にする会 | 教育部 図書館交流課 |
| 22 | 『世代を超えて地域と共に』 新・オバハン落語ユニット「三色団子」さんの 絵本&落語ライブ | あめんぼの会 | |
| 23 | 安曇野さんぽ市2017年Spring | 安曇野さんぽ市実行委員会 | |
| 24 | 安曇野スタイル2017 | 安曇野スタイルネットワーク | |

平成29年度実施個別協働事業一覧

| ページ | 事業名 | 協働の相手方 | 事業担当課 |
|-----|-----------------------------|---|------------------|
| 25 | 第6回そば猪口アート公募展 | 東京藝術大学、安曇野高橋節郎記念美術館友の会、現代工芸美術家協会長野会、安曇野スタイルネットワーク | 教育部 文化課 |
| 26 | 第13回北穂高芸術展 | 北穂高地区(島新田、青木花見、狐島) | |
| 27 | 改組新第4回 日展工芸美術長野県入賞者展 | 日展工芸美術長野県入選者実行委員会 | |
| 28 | 「安曇野文化」刊行事業 | 安曇野文化刊行委員会 | |
| 29 | 第13回早春賦音楽祭 | 早春賦音楽祭実行委員会 | |
| 30 | 安曇野市美術館博物館連携事業 | 安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会 | |
| 31 | 第27回信州安曇野能楽鑑賞会 | 信州安曇野薪能実行委員会 | |
| 33 | あづみのフィルムアーカイブ事業 | あづみのフィルムアーカイブ | |
| 34 | 懐かしき安曇野の水のすがた —移り変わりの記録— | NPO法人 川の自然と文化研究所 | |
| 35 | 安曇野市里山再生計画推進事業 「さとふる。」 | 安曇野市里山再生計画推進協議会 | |
| 36 | 第34回早春賦まつり | 早春賦まつり実行委員会 | 商工観光部 観光交流促進課 |
| 37 | 第3回信州安曇野ハーフマラソン事業 | 信州安曇野ハーフマラソン実行委員会 | |
| 38 | 第33回信州安曇野あやめまつり | あやめまつり実行委員会 | |
| 39 | 第34回信州安曇野わさび祭り | 信州安曇野わさび祭り実行委員会 YOSAKOI安曇野実行委員会 | |
| 40 | 第11回安曇野花火 | 安曇野花火実行委員会 | |
| 41 | 第49回安曇野観光草競馬大会 | 安曇野競馬愛好会 | |
| 42 | ご当地グルメ事業 | 安曇野調理師会 安曇野市商工会 | |
| 43 | 信州安曇野北アルプスパノラマ銀座 山岳フェスタ | 安曇野市山岳観光推進実行委員会 | |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|--|
| 事業の名称 | | 安曇野市男女共同参画フォーラム 2017 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市男女共同参画共同参画 フォーラム 2017 実行委員会 | |
| | 市側 | 総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生 担当 | |

男女共同参画フォーラム

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-------------------|
| 取組の背景・課題 | 女性や子どもの貧困、DV、多文化共生等多様化する社会問題や、男女共同参画社会づくりの意義を考え、いきいきと生活するヒントを探る。 | | |
| 事業の目的 | 男女共同参画に関する様々な問題を、地域市民と共に考え意見交換をすることで意識の啓発をはかる。 | | |
| 成果目標 | 性別や年齢に関係なく個人の能力を十分に発揮することができる社会の実現のため、講演会や意見交換から 男女共同参画の必要性を考える機会とする。 | | |
| 実施場所 | 市役所 大会議室 | 事業期間 | 平成 29 年 11 月 23 日 |
| 事業の概要 | 2015 年男女共同参画社会づくり内閣総理大臣表彰を受賞した山下泰子さんを講師に迎え、「人生を豊かに生きる」～ネパール山村におなご先生を～と題した講演会と意見交換会を行った。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|--|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 実行委員会開催（3回）・協議事項の決定（日程・企画・テーマの設定・広報・運営準備・役割分担・当日の運営等） |
| | 相手側 | 事業運営全般（参加者の個別勧誘・展示物の準備及び展示・当日の案内・受付・進行・意見交換会進行・講師接待・会場準備及び撤収、等） |
| | 市側 | 会場確保・講師依頼・講師との連絡調整・広報・プレスリリース・チラシ作成・周知・会場看板等準備・当日運営補助・会場準備及び撤収・駐車場確保・誘導等 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 参加者 63 人。ネパールでの活動の講演と意見交換会を通し、改めて男女共同参画や女性の地位向上の必要性を実感した。 |
| 協働による効果 | 実行委員会と同じ目標に向かい市民・行政両目線から一緒に事業が遂行できた。 |
| 課題・改善点 | 参加者の年齢層の高齢化と固定化がされてきている。現役世代の参加が見込める企画が必要である |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 平成 29 年度 人権のつどい |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 松本人権擁護委員協議会安曇野部会 安曇野市企業人権教育推進協議会 安曇野市男女共同参画推進会議 | |
| | 市側 | 総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生担当 | |

人権作文コンテスト表彰式

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 毎年 12 月 4 日から 10 日までは人権尊重思想の普及を図る「人権週間」、また同 10 日から 16 日までが「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」と定められていることから、この期間に合わせ、安曇野市においても人権について考える機会として「人権のつどい」を開催する。 | | |
| 事業の目的 | 人権作文コンテスト入選作品の発表により、純真でまっすぐな心に触れるとともに人権尊重の重要性を再認識する機会として実施する。 | | |
| 成果目標 | 市民の皆さんが人権を尊重する意識を持ち、差別や偏見について考える場となる。 | | |
| 実施場所 | 豊科公民館 大ホール | 事業期間 | 平成 29 年 12 月 3 日 |
| 事業の概要 | 中学生による人権作文コンテスト松本地区大会入選作品の発表と、昭和 53 年から平成 14 年に帰国するまでの 24 年間、拉致被害者として北朝鮮での生活を余儀なくされた蓮池 薫さんにご講演いただいた。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 打合せ、進行の役割分担、当日の運営 |
| | 相手側 | 受付補助、展示物の作成、記念品配布、作文表彰式の進行、作文の募集・選考、関連団体・個人への呼びかけ |
| | 市側 | 開催にあたる準備、連絡調整等、学校へ連絡、チラシ作成・周知、広報、プレスリリース、講師派遣依頼・打ち合わせ |

【実施結果】

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 約 700 名の来場者に人権尊重の意識を改めて確認いただいた。 |
| 協働による効果 | 差別や偏見をなくし、人権を尊重し合うことの周知に繋がった。 |
| 課題・改善点 | 団体ごとの仕事の負担を、不公平感を持っている所も見られた。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 多文化共生地域づくり事業 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | あづみの国際化ネットワーク（AIN） | | |
| | 市側 | 総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生担当 | | |

あづみの国際 DAY

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野市には約 1,200 人の外国人住民がおり、共に住みよい地域づくりを進めるために、住民相互の国際理解は欠かせません。 異文化や言葉の不自由によるコミュニケーション不足、情報不足や地域コミュニティからの孤立といった課題を解消していくことが求められている。 | | |
| 事業の目的 | 外国籍住民と日本人住民、又は外国籍住民同士が生活レベルで可能な、やさしい日本語講座、防災講座、日本語スピーチ大会、交流イベント等を開催することにより、「顔の見える」信頼関係を築いていくことから、多文化共生の推進を図っていく。 | | |
| 成果目標 | 文化や生活習慣の違いを理解し、互いの信頼を深めていく。 | | |
| 実施場所 | 安曇野市内ほか | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～11 月 |
| 事業の概要 | 「やさしい日本語講座」、「防災体験」、「日本語スピーチ大会」、「あづみの国際 DAY」他 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | イベント内容検討、チラシ原稿作成、会場準備、片付け |
| | 相手側 | イベント運営、進行、通訳等 |
| | 市側 | チラシ印刷、広報・HP による募集、会場確保、看板等作成 |

【実施結果】

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 多様な国籍の住民と理解を深め、多文化共生を進める機会となった。 |
| 協働による効果 | 外国人住民の参加者確保 |
| 課題・改善点 | 多文化共生について関心が低い層に対し、興味を持ってもらうことが必要。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり 地域支え合い推進フォーラム |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（独自の取組） | |
| 実施団体 | 相手側 | 13 団体 協定締結団体 | |
| | 市側 | 保健医療部 介護保険課 介護保険担当 | |

地域支え合い推進フォーラムパネルディスカッションによる発表

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------------|
| 取組の背景・課題 | 地域住民による支え合い・助け合いの地域づくりが必要 | | |
| 事業の目的 | 地域住民による支え合いの地域づくりに向けて、住民主体の取り組みを広げていくために、今、なぜ支え合いが必要なのかを学ぶとともに、市内で活動している団体からの実践報告を受け、生活支援や介護予防の取り組みを考え、広めていただく機会とする。 | | |
| 成果目標 | フォーラム参加者がなぜ支え合いが必要なのかを学ぶとともに、市内で活動している団体からの実践報告を受け、生活支援や介護予防の取り組みを考える | | |
| 実施場所 | 安曇野市役所 4 階 大会議室 | 事業期間 | 平成 29 年 10 月 28 日 |
| 事業の概要 | <p>○基調講演「地域が輝く支え合い～つながり、いきいきと暮らせる安曇野市を目指して～」公益財団法人さわやか福祉財団 高橋望氏、</p> <p>○パネルディスカッション「支え合いの地域づくりに向けて」区が主体で実施するサロン・高齢者サロン「ほたる」、NPO 法人が区と連携して実施する地域活動・「ほっとひだまり」、NPO 法人が地域住民と連携して実施するサロン、健康体操教室「縁側処だいたい」、地域住民が主体で開始し、区と連携して実施する健康体操教室「野沢うきうき体操クラブ」</p> | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|----------------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり |
| | 相手側 | 助け合いの地域づくりの学習会に参加し事業を推進 |
| | 市側 | 助け合いの地域づくりの研修会の提供 |

【実施結果】

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 地域づくり課、長寿社会課と連携開催ができ、予定をした内容は達成できた。 |
| 協働による効果 | 新たに、支え合いの地域づくりに参加したい方の発掘ができた。 |
| 課題・改善点 | 毎年開催できるように、開催時間も厳選して進めたい |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 事業の名称 | | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり あんしんセミナー |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（独自の取組） | |
| 実施団体 | 相手側 | 特定非営利活動法人 JA あづみ くらしの助け合いネットワーク あんしん | |
| | 市側 | 保健医療部 介護保険課 介護保険担当 | |

第1回あんしんセミナー「元気でいきいき！
安曇野・農的生活のすすめ」

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|----------|
| 取組の背景・課題 | 高齢者が住み慣れた地域で生活を続けるためには、生きがいを持って地域とつながり続けなければならないと考えた。また、参加者の状況を確認する見守りができればと考えた。 | | |
| 事業の目的 | 農等による高齢者等の生きがいづくりの機会の提供と、活動参加者の見守り | | |
| 成果目標 | セミナー参加高齢者の見守り。参加者のあんしんの活動への参加 | | |
| 実施場所 | 地域支え合いセンター あんしん | 事業期間 | 平成29年4月～ |
| 事業の概要 | 毎月1回のセミナー開催（別添）及び欠席高齢者の安否確認 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|--------------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり |
| | 相手側 | 見守り活動実施、高齢者等が暮らしやすい地域づくり事業の実施 |
| | 市側 | 常時見守りが必要な方を特定した場合の支援、相手方の活動の支援、活動の公表 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | セミナー参加者のあんしんの活動（ボランティア活動等）への参加 |
| 協働による効果 | 活動を紹介し、市内に広げる |
| 課題・改善点 | |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 事業の名称 | | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり ほがらか散歩見守り隊 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（独自の取組） | |
| 実施団体 | 相手側 | 特定非営利活動法人 コミュニティーケアサポート | |
| | 市側 | 保健医療部 介護保険課 介護保険担当 | |

筍の季節、近所の畑作業中の人に話しかけながら見守り活動をしました

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|--------------|
| 取組の背景・課題 | 地域の一人暮らしの高齢者が増えてきたので、声かけや見守りができないかと、地域の民生委員さんの提案があり、何かできることがないかとサロン参加者で検討し、NPO法人の地域サロン活動の一環として実施することとなった。 | | |
| 事業の目的 | サロンの参加者の健康維持と、地域を知るための散歩と、一人暮らしの方の見守り活動。 | | |
| 成果目標 | 一人暮らしの高齢者等の安否確認をするとともに、知り合いになってサロン活動に参加してもらう。 | | |
| 実施場所 | 下飯田、飯田、熊倉、 中曽根、たつみ原 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～ |
| 事業の概要 | 当NPOで実施している地域サロンの参加者が、皆でサロン参加者の住んでいる近隣を散歩し、声掛けできる付き合いの方と世間話をする中で地区内の情報を聞いている。また、散歩コースには、一人暮らしの方・高齢家族の家を組み込んで、様子の確認や声掛けを実施し見守り活動とする。散歩は、午前中のサロン活動(食事会等)の後、自由参加としている。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|--------------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり |
| | 相手側 | 見守り活動実施、高齢者等が暮らしやすい地域づくり事業の実施 |
| | 市側 | 常時見守りが必要な方を特定した場合の支援、相手方の活動の支援、活動の公表 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 活動で声掛けをした一人暮らしの方のサロンへの参加 |
| 協働による効果 | 活動を紹介し、市内に広げる。 |
| 課題・改善点 | 月2回の活動を目標としているが、気候・気温等を考慮し冬場の活動が難しいと感じている。少しの散歩なら参加できそうな方には自宅前から声掛けをしてお誘いすることも検討していきたい。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり 地域の見守り活動事業 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（独自の取組） | |
| 実施団体 | 相手側 | 古民家デイサービス有明郷・有限会社小林商事 | |
| | 市側 | 保健医療部 介護保険課 介護保険担当 | |

古民家デイサービス有明郷

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|--------------|
| 取組の背景・課題 | デイサービスのご利用者、認知症カフェのご利用所、その他相談を受けた方等認知症や高齢の一人暮らしなど見守りが必要な方から相談を受け見守りが必要だと感じた。 | | |
| 事業の目的 | 見守りが必要な方の安否確認。 | | |
| 成果目標 | 見守りが必要な方が、安全に日頃の生活が行えるように支援する。 | | |
| 実施場所 | 穂高有明地域、等々力、穂高 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～ |
| 事業の概要 | 事業所の職員が、送迎時に状況を確認するほか、一人暮らしの方の家を訪問して安否確認を行う。そのため普段の生活の中でも見守りに心がける。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|--------------------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 高齢者・障がい者の安曇野市地域見守り活動による助け合い体制づくり |
| | 相手側 | 見守り活動実施、高齢者等が暮らしやすい地域づくり事業の実施 |
| | 市側 | 常時見守りが必要な方を特定した場合の支援、相手方の活動の支援、活動の公表 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 普段の見守りで認知症高齢者の方を保護したり、地域包括支援センターにつなげるなど安全安心を確保する事例が数件あった。 |
| 協働による効果 | 活動を紹介し、市内に広げる。 |
| 課題・改善点 | 認知症の高齢者を発見した時の対応の仕方を市内に普及させる必要があると考える。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 災害時住民支えあいマップ作成研修 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市社会福祉協議会 | |
| | 市側 | 福祉部 長寿社会課 福祉政策担当 | |

ささえあいマップ研修会の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 阪神淡路大震災、新潟中越地方の豪雨、地震の被害を受けて、内閣府では大都市だけでなく地方でも災害時の助け合いができなくなっているとの判断された。 | | |
| 事業の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分の住む地区で、住民全てが安全に避難するための情報を掲載する。 ・地域の状況や問題点を知り、地域の繋がりや支え合いを再認識するきっかけを作る。 | | |
| 成果目標 | 全ての区で毎年度更新ができること | | |
| 実施場所 | 市内全 83 区 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | 災害時にいつ、誰が、どのように安否確認、避難行動の支援等をするのかを考えるため、地図を使用した住民による話し合いを元に書き込んだ地図を作成する。 | | |

【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 研修会の開催（主催、共催） |
| | 相手側 | 関係者への通知・研修会主催・事業補助金の受付及び交付 |
| | 市側 | 研修共催、参加・作成相談・マップコピー・作成、更新届出窓口 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 取り組み状況は、毎年度末に把握する。 |
| 協働による効果 | 社協にはアドバイザーや専門職がいるので実務に直結でき、市は取り組みの補佐的な役割を担い、互いに情報を共有して相談支援体制を作っている。 |
| 課題・改善点 | <ul style="list-style-type: none"> ・マップ更新のための地図の入手が困難な区がある。 ・区の作成時の負担を減らすため、市へのマップの提出を求めず、成果品の披露のみとするよう改善が必要。 ・研修会の前にマップ作成の手順の説明を丁寧に行う必要がある。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野環境フェア 2017 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野環境フェア 2017 実行委員会 | | |
| | 市側 | 市民生活部 環境課 環境政策係 | | |

安曇野環境フェア開催の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野市環境基本計画策定を機に、計画推進の第一歩として、安曇野市内外で環境に関する活動を展開されている皆さんの活動紹介の場を設けたい。 | | |
| 事業の目的 | フェア開催により、市環境基本計画で定められた取り組みを広く紹介するとともに、出展者と来場者の交流を深め、これまで参加していなかった人も巻き込みながら、つながりの環を広げていくこと。 | | |
| 成果目標 | 来場者数 計 2,000 人 | | |
| 実施場所 | 安曇野市堀金総合体育館 | 事業期間 | 平成 29 年 1 月～11 月 |
| 事業の概要 | 安曇野市環境基本計画推進会議の委員や、環境活動に勤しむ市民団体等と実行委員会を設立し、フェアの企画・立案から準備・広報・運営までを協力しながら進めている。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 企画・立案、準備～前日のイベント運営、チラシ等の検討・配布 |
| | 相手側 | メディア対応 |
| | 市側 | 会場予約・設営発注、出展者募集・決定、後援依頼 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 来場者数 計 1,700 人 |
| 協働による効果 | 市民目線によるイベントの企画・立案が図られること 実行委員会の人脈によるつながり拡大があること |
| 課題・改善点 | 新規協力者の確保が困難であること、企画のマンネリ化 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 歩いて楽しいまちづくりプロジェクト | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 潮沢ロマンの会 | | |
| | 市側 | 市民生活部 環境課 環境政策係 | | |

明科公民館での講座の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野市環境基本計画の取り組み項目の一つとして、「市民参加による公園再生の仕組みづくり」、「水景観と歴史・文化遺産を生かしたまちづくり」の構想を基礎とし、計画を推進する。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野のフィールドをゆっくり歩き、身の回りにある「いいところ」を知り、楽しみながら守り育て、コミュニティや地域の活性化等を促すことで、健康に、心地よく暮らせる安曇野の環境を実現する。 | | |
| 成果目標 | 地元の方々が主体となって取り組む体制の構築 | | |
| 実施場所 | 明科地域 潮沢区 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | <p>地区住民や市民団体等と協力し、地域の「いいところ」の再発見、「いいところ」の発信・提供、地域主体により「いいところ」を受け継ぐことを順に進めている。</p> <p>現在は地区住民有志による「潮沢ロマンの会」の活動を基盤に、潮沢区に伝わる文化や歴史などの「いいところ」を整理し、後世に受け継ぐ活動を進めている。</p> | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|----------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 収集した資料の校正 |
| | 相手側 | 文献等の収集、現地調査・聞き取り、取り組み成果の発表 |
| | 市側 | 収集した資料の整理、活動機会の創出、成果物の作成 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 潮沢区のサークル活動の一部として移行。今後は体制確立に向けた支援を図る。 |
| 協働による効果 | 聞き取りや資料収集が容易となること、資料作成の負担が軽減されること。 |
| 課題・改善点 | 新規協力者の確保が困難であること。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 不用食器リサイクル |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 不用食器リサイクル実行委員会 | |
| | 市側 | 市民生活部 廃棄物対策課 廃棄物対策担当 | |

不用食器リサイクル（もったいない市の様子）

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-----------------------|
| 取組の背景・課題 | 家庭から排出される不用となった食器は、不燃ごみとして埋め立て処分しているが、循環型社会の形成推進の観点からリユース及びリサイクルを図る必要がある。 | | |
| 事業の目的 | ごみ減量化対策の一環である循環型社会の形成推進を図る。 | | |
| 成果目標 | 市民と協働で不用食器の回収を行ってリユースの場を提供し、不燃ごみの減量化と資源の有効活用につなげる。 | | |
| 実施場所 | 豊科県民グラウンド駐車場 | 事業期間 | 平成 29 年 9 月 24 日～26 日 |
| 事業の概要 | 平成 29 年 9 月 24 日に不用食器の集団回収を行い、同会場に再配布スペース（「もったいない市」）を設け、9 月 24 日から 26 日の間、希望者に再配布を行った。 また、10 月 7、8 日開催の「安曇野市環境フェア 2017」でも「もったいない市」を実施し、不用食器の再配布を行った。 なお、回収した食器の内、約 4.6 トンを陶土の原料として再生利用するため、岐阜県土岐市の中間処理業者に運搬し、資源の有効活用を図った。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|--|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 会場準備・片付け |
| | 相手側 | 不用食器の仕分けや搬入者の誘導等、再利用スペースの運営 |
| | 市側 | 回収場所の提供、不用食器の運搬・運搬費用の負担・住民への広報、中間処理業者への視察研修の手配 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 概ね達成できた。 |
| 協働による効果 | 主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。 |
| 課題・改善点 | 準備や片づけ、食器運搬の際などに怪我をしないよう、気を付けて作業することを呼びかける。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム) |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他() | |
| 実施団体 | 相手側 | 岩原ひまわりクラブ | |
| | 市側 | 市民生活部 堀金地域課 地域担当 | |

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------|
| 取組の背景・課題 | 美化活動を通して子どもからお年寄り並びに事業所、会社までが共に協力、交流をしながら、住みよい・美しい岩原区を作り上げ、地域活性化を図るために活動が始まる。平成25年7月2日に岩原ひまわりクラブ・市・安曇野建設事務所で3者協定を結ぶ。 | | |
| 事業の目的 | 長野県が管理する道路において、地域住民が主体で行う道路の美化活動を行政が支援し、生活空間の一部である道路への愛着心を深めていただき、地域環境の向上を図る。 | | |
| 成果目標 | 花の植栽や美化清掃作業等により、活動区間を良好な環境に保つ。 | | |
| 実施場所 | 主要地方道塩尻鍋割穂高線 (堀金烏川(岩原)地区) | 事業期間 | 平成29年5月~11月 |
| 事業の概要 | 岩原ひまわりクラブは、地域住民と協力し、歩道及び歩道に設置された植樹帯等に花などを植え、良好な地域環境の保持に努める。市は、岩原ひまわりクラブ及び建設事務所との連絡調整を行うとともに、岩原ひまわりクラブが収集したゴミの処理に協力する。建設事務所は、活動区間に団体名等を記載した表示板を設置するとともに、岩原ひまわりクラブの希望により、必要な清掃用具、材料等を貸与又は支給する。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|-------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 無し |
| | 相手側 | 歩道及び歩道に設置された植樹帯等の美化清掃作業 |
| | 市側 | ゴミの処理 |

【実施結果】

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 活動区間の美化のため、各々の役割分担により、花の植栽等を実施した。 |
| 協働による効果 | 道路の美化と地域環境の向上 |
| 課題・改善点 | 降雪前のゴミの処理及び処理までの環境整備 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | ほりがね秋の振興祭り | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | ほりがね秋の振興祭り実行委員会 | | |
| | 市側 | 市民生活部 堀金地域課 地域担当 | | |

振興祭り もちつき

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-------------|
| 取組の背景・課題 | 合併前「堀金特産祭り」として行政主導で実施してきたが、27年度より新たに「ほりがね秋の振興祭り」として実施している。堀金物産センター前の駐車スペースを主会場に、地元小学生の合唱や、キッズビクス、また地元産の特産物の配布等を行い、人気を博している。29年度は更なる集客を狙い、堀金地域課・堀金公民館で堀金多目的屋内運動場を会場として、併催事業(常念フェスティバル)を開催した。 | | |
| 事業の目的 | 堀金地域の活性化とともに、特産物を地域内外へアピールする。 | | |
| 成果目標 | 前回同程度の集客（約2,000人） | | |
| 実施場所 | 堀金物産センター前駐車 堀金多目的屋内運動場 堀金中央公園 | 事業期間 | 平成29年10月28日 |
| 事業の概要 | <p>【堀金物産センター前駐車場】小学生ステージイベント、体験イベント、小学生売り子体験、特産物無料配布</p> <p>【堀金多目的屋内運動場】フリーマーケット、クラフト製品の製作・販売、工作、各種団体発表、子ども食堂、仮装行列</p> <p>【堀金中央公園】福もち、福菓子投げ</p> | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | イベントの開催、駐車場整備 |
| | 相手側 | ほりがね秋の振興祭り開催 |
| | 市側 | 常念フェスティバル開催 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 実行委員会を開催し事業を実施した。 |
| 協働による効果 | 前回同程度の集客があった。 |
| 課題・改善点 | 二つのイベントを開催し、それぞれで相乗効果を見込んだが、常念フェスティバルへの集客が伸び悩んだ。また、午後からの降雨のため、屋外事業が一部実施することができず、予定より早く閉会とした。イベントの開催方法について、再度検討する必要がある。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|---|--|---|
| 事業の名称 | | アルプス花街道 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | アルプス花街道実行委員会 | | |
| | 市側 | 市民生活部 地域づくり課 豊科地域係 | | |

事業実施場所の視察

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野五輪を機に高まった。潤いのある地域づくりに向けて、市民と行政と一緒に汗を流し、協働によるまちづくりが必要とされている。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、自然と人にやさしいまちづくりを推進するため、住民の創意工夫による美しい景観の形成を目指すもの | | |
| 成果目標 | 70 団体以上の参加 | | |
| 実施場所 | 県道柏矢町田沢停車場線 沿線外 9 路線 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | 市内 10 箇所で花木等の植栽を実施する。花木の栽培は、実行委員会の構成団体で一定の区間を受け持ち、定植・水やり・除草等の管理を行う。5 月から 11 月にかけて事業を行う。また、啓発活動を行い、本事業の取組を啓発する。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | マリーゴールドの植栽、管理 |
| | 相手側 | 実行委員会の運営、資材等の手配、植栽箇所の巡視 |
| | 市側 | 委託料の支払、事務局の補佐 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 76 団体の参加があり、目標を達成することができた。 |
| 協働による効果 | 参加団体が事業個所への花の植栽・管理を実施し、景観形成ができた。 |
| 課題・改善点 | 参加団体の都合もあり、無理はできないが、植栽時期の統一や草刈り等の管理に力を入れたい。また、参加団体・個人がより自発的に活動できるように支援していくこと。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | あづみ野祭り | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | あづみ野祭り実行委員会 | | |
| | 市側 | 市民生活部 地域づくり課 豊科地域係 | | |

あづみ野ばやし踊り

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 住民相互のつながりが希薄となる社会情勢の中で、住みよい地域を構築するためには、地域のつながりの醸成が必要である。また、既存の商店の閉店が多くなる中、地元商店街を活性化させる必要性が生じている。 | | |
| 事業の目的 | あづみ野祭りを通じ、市民の連帯感と「心のふるさと」づくりに努め、観光の促進と文化厚生の発展に資し、かつ産業経済の進展に寄与することを目的とする。 | | |
| 成果目標 | 地元自治会や企業などに呼びかけ、40 連以上の踊り連に参加していただく。 | | |
| 実施場所 | 国道 147 号（成相～新田） 及びその周辺 | 事業期間 | 平成 29 年 7 月 29 日 |
| 事業の概要 | 地元企業や自治会等の団体が踊り連を作り趣向を凝らした山車とともにあづみ野ばやし踊りを行う。会場は、豊科地域の中心部である国道 147 号及びその周辺で、交通規制を実施し、盛大に踊り連が練り歩く。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-----------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 事務局の運営、交通防災対策、 |
| | 相手側 | あづみ野祭りの企画立案、会計、踊り連の講習 |
| | 市側 | 補助金の交付、当日のスタッフの動員 |

【実施結果】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 地元企業や自治会等の踊り連 44 連の参加があった。 |
| 協働による効果 | 商工会と行政の連携を商店や中心に商店街の活性化が図れた。 |
| 課題・改善点 | ごみの分別を徹底する対策が必要。スタッフ不足。効率的な催事運営。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト | | |
| | 市側 | 市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係 | | |

市民参加による本年度の植栽事業

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-----------------------|
| 取組の背景・課題 | 桜の名所として知られる光城山では、桜の老木化が進んでおり、通称「昇り龍」を後世に残していくこと、また、周辺自然環境の保全、地域の歴史文化の伝承等が課題となっている。これらの課題解決のため、市民と行政が共に力を合わせて協働により取り組む必要性があった。 | | |
| 事業の目的 | 光城山の課題解決を図るとともに、プロジェクトの取り組みが協働のモデルとなり、協働による課題解決の仕組みを広めること、もって安曇野市の一体感の醸成に寄与することを目的とする。 | | |
| 成果目標 | 登山等中腹に 60 本の桜の苗木の植栽。歴史講座の開催。自然観察会の開催。 | | |
| 実施場所 | 光城山 他 | 事業期間 | H29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 つのテーマ（分科会）による研究及び事業推進。 ・ 登山道中腹への桜の苗木 60 本の植栽。（地元区、豊科東小学校） ・ 田沢城跡の遺構を巡る講座の開催。 ・ 光城山の自然環境及び外来植物等について学ぶ講座の開催。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|---------------------------------------|
| 役割分担 | 一緒に取組 | 事業計画の検討、各事業準備作業、各事業運営 |
| | 相手側 | 鹿対策防護柵の作成、桜の生育管理、各団体のとりまとめ など |
| | 市側 | 予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、各事業参加者のとりまとめ、広報 など |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 十分に達成できた。 |
| 協働による効果 | 双方の主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。 |
| 課題・改善点 | 今後、植栽した桜の生育管理が大きな課題となる。また、協働の取り組みを広く周知するため、発信に力を入れていく。次年度は、プロジェクトの目的や課題等について、改めて団体間で共有し、協働のさらなる推進を図っていく。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | ～あなたの夢が叶う！？～ 「協働ワークショップ」で体感しよう | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | E・BE・YA あづみ家 | | |
| | 市側 | 市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係 | | |

市民参加による協働ワークショップ

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-----------------|
| 取組の背景・課題 | 人口減少、少子高齢化等の社会情勢の変化、また地方分権の進展等により、市民が主体の「協働のまちづくり」が重要となってきている。しかしながら、「協働」への理解はいまだ不足している。 | | |
| 事業の目的 | ワークショップを通して、市民に「協働」への理解を深め、啓発、普及の機会とすることを目的とする。 | | |
| 成果目標 | 参加者にワークショップを通して「協働」への理解を深めてもらう。また、ワークショップの記録を冊子にまとめ、「協働」の啓発、普及に活用する。 | | |
| 実施場所 | きぼう多目的ホール 安曇野市役所大会議室 | 事業期間 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・「協働体感」型のワークショップの開催 ・地域課題解決、理想の地域像実現の具体的企画の立案 ・「協働」の発信と広報 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|-------------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 学校依頼、会場準備、資料作成等 |
| | 相手側 | ワークショップ運営、結果取りまとめ、団体等への周知・啓発等 |
| | 市側 | 参加者とりまとめ、会場準備、広報等 |

【実施結果】

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 充分達成できた。 |
| 協働による効果 | 主体的な役割分担により、事業を効果的に推進できた。 |
| 課題・改善点 | 今回のワークショップ結果を活用し、さらに協働の啓発・普及を進める。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 事業の名称 | | ガーデンファーム（せんぜ畑）ライフを通じた 地域の絆づくり事業 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野をもっと元気にする会 | |
| | 市側 | 市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係 | |

春の講演会でのガーデンファーム体験発表

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 人口減少、少子高齢化等による地域課題の多様化、複雑化、高度化、また、地方分権の進展等により、市民が主体の協働のまちづくりを推進していくことが求められている。しかし、「協働」が市民に広く浸透しておらず、その理解促進が課題となっている。 | | |
| 事業の目的 | 協働の理解促進を図るための事業について、市民目線で団体より企画提案いただいた事業を市と協働により実施することで、市民の協働に対する理解促進を図る。 | | |
| 成果目標 | ガーデンファームを通じて、田園生活における地域課題解決の取り組みの実践を広げ、以て地域の絆づくり及び協働の理解促進を図る。 | | |
| 実施場所 | 豊科交流学習センター 「きぼう」 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 春・秋に、野菜作りの講演会並びにガーデンファームの体験発表会の開催 ・ ガーデンファームの講演会（講師：熊井明子氏） ・ ガーデンファームの紹介冊子の作成 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|----------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 講演会開催準備、事業運営、紹介冊子編集・配布など |
| | 相手側 | 参加者の呼びかけ、チラシ・資料等の作成・配布、講師謝礼、取材など |
| | 市側 | 会場の確保、広報、チラシ・資料等の監修・構成・印刷、講師謝礼など |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 講演会の開催により、地域課題解決に向けたガーデンファームの取り組みに関心を高めることができ、今後の実践につなげることができた。 |
| 協働による効果 | 会場の確保や事業の周知など行政の得意とする分野と、団体のもつネットワークづくりのノウハウ等、お互いの特性を活かすことで効果が高まった。 |
| 課題・改善点 | 今後、さらに実践を通じた協働の理解促進を図っていく。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 『世代を超えて地域と共に』 新・オバハン落語ユニット「三色団子」の絵本&落語ライブ | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | あめんぼの会 | | |
| | 市側 | 教育部 図書館交流課 図書館交流担当 | | |

出演者との記念写真

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-----------------|
| 取組の背景・課題 | 「世代を超えて、地域と共に」をテーマに活動 | | |
| 事業の目的 | 人との出会いを大切に、共に楽しい時間と空間を共有できる「支え合い」を主たる目的とした地域への支援活動 | | |
| 成果目標 | 子どもから大人まで、世代を超えた交流ができ、楽しい時間を過ごせた。 | | |
| 実施場所 | 堀金公民館 | 事業期間 | 平成 29 年 7 月 8 日 |
| 事業の概要 | 1 小さな子供から大人まで楽しめる落語 2 絵本の読み聞かせ 3 あそびうた 4 パネルシアター | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|----------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | イベントの企画・運営・会場設営 |
| | 相手側 | 出演者との連絡調整、参加受付、支出監理、 |
| | 市側 | 会場確保、開催チラシ印刷・配布 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 多くの方に参加していただき、みんなの笑顔で、地域のコミュニティの再構築のきっかけになった。 |
| 協働による効果 | まちづくりの関心や図書館事業への参画意識が高まった。 |
| 課題・改善点 | 事業費確保、情報共有、PR 周知 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|---|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野さんぽ市 2017 年 Spring | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野さんぽ市実行委員会 | | |
| | 市側 | 教育部 図書館交流課 図書館交流担当 | | |

交流広場での出店の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-----------------------|
| 取組の背景・課題 | ものづくり作家（アマチュアも含む）や職人自身と、使う人が直接顔を合わせ、出会える場所、散歩気分で立ち寄って交流できる場を創出することを目的とした事業。 | | |
| 事業の目的 | 作家（出展者）と市民、あるいは市民同士の交流の促進。会場である穂高交流学習センターを多くの方に親んでもらい、交流の場としての役割を果たす。 | | |
| 成果目標 | 参加者（施設）増員と、人の出会いや交流の創出、それらの場としての施設の定着。 | | |
| 実施場所 | 安曇野市交流学習センター「みらい」 | 事業期間 | 平成 29 年 5 月 21 日～22 日 |
| 事業の概要 | 安曇野市にて活動するものづくり作家や職人たちが主に出展者となり、手作り品の展示・販売・ワークショップを行う。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|-------------------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 説明会の開催、区画割り、催事当日の運営（設営・撤収含む）及び管理、告知 |
| | 相手側 | 参加者の問い合わせ対応、支出管理、広報等 |
| | 市側 | 参加・区画の事前受付、施設の貸出し、敷地内の管理等 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 参加者は増加。認知度も高まってきている。 |
| 協働による効果 | 交流する場の創出と、穂高交流学習センターの地域住民への定着。 |
| 課題・改善点 | 駐車場の問題や、熱中症への対策。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|----------|---------|--|--|--|
| 事業の名称 | | 安曇野スタイル 2017 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施 団体 | 相手 側 | 安曇野スタイルネットワーク | | |
| | 市側 | 教育部 図書館交流課 図書館交流担当 | | |

ワークショップのようす

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|----------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野のローカル情報を集めたマップ発行の目的から組織が立ち上げられ、そのマップを片手に安曇野を巡ってもらう「安曇野スタイル」へと発展。安曇野の魅力为全国に、また、地域の人々にも伝えるべく、市民レベルの活動に留まらず、行政とともに地域を活性化させることが背景にある。活動の周知と、内容の充実が課題。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野を拠点、活動場所とする作家や施設が普段とは違うおもてなしを行うことで、人の交流を生み出し、地域と文化の発展に繋げる。 | | |
| 成果目標 | 安曇野の作家、作品を多くの人に周知し、交流の輪を広げる。 | | |
| 実施場所 | 安曇野市内外の各参加施設、工房など約 100 ヶ所 | 事業期間 | 平成 29 年 11 月 2 日～5 日 |
| 事業の概要 | 安曇野地域にて活動する作家、工房などが、一定期間、安曇野に暮らす人、安曇野へ訪れる人のために期間限定のおもてなし（体験等）を行う。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|------------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 説明会開催、作品展示の搬入出、安曇野スタイル開催の告知等 |
| | 相手側 | ガイドマップ製作、参加施設取りまとめ、支出管理、協賛施設への連絡等 |
| | 市側 | ガイドマップ配布、参加者の作品展示・管理、期間中の案内、展示場所提供 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | パンフレットを小学校に配布したこと成果もあり、広い年齢層の集客ができた。 |
| 協働による効果 | 図書館やホールなどの利用者も、展示作品やワークショップを通して安曇野市内の作家や作品と触れ合う機会ができた。 |
| 課題・改善点 | この活動に対する認知度を高めること。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第6回そば猪口アート公募展 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 東京藝術大学、安曇野高橋節郎記念美術館友の会、現代工芸美術家協会長野会、安曇野スタイルネットワーク | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化振興係 安曇野高橋節郎記念美術館 | |

入選作品の展覧会風景

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-----------------------|
| 取組の背景・課題 | 実行委員会にはそれぞれ公募に出展してくれそうな作家の所属する団体に入っ ていただいている。入選作品が多くなり、展示スペース、作業人員が大きな負 担ではある。 | | |
| 事業の目的 | 現代工芸美術の世界で活躍した高橋節郎の顕彰の一環として始めて6回を迎え た。 | | |
| 成果目標 | 応募作品をより多く。 | | |
| 実施場所 | 安曇野高橋節郎記念美術館外 | 事業期間 | 展示 平成29年9月5日～10月9日 |
| 事業の概要 | 素材を問わず、加飾したそば猪口の公募展。実行委員会には出品してくれそう な作家が所属する団体が加入。今回は第6回を数え210点の応募作品があり、 126点を入選作品として展示した。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 選考会 |
| | 相手側 | 応募作品の呼びかけ、周知 |
| | 市側 | 事務局、展示、表彰式開催、作品の受付、返送など |

【実施結果】

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 応募作品は例年なみに集まりそれなりの達成。 |
| 協働による効果 | より多くの方に出品いただけた。 |
| 課題・改善点 | 応募だけでなく、もう少し市内の方へが公募展へ興味を持ってもらいたい。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|---|--|---|
| 事業の名称 | | 第 13 回北穂高芸術展 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 北穂高地区（島新田、青木花見、狐島） | | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化振興係 安曇野高橋節郎記念美術館 | | |

展覧会風景

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------------------------|
| 取組の背景・課題 | 展示の場所が展示室ではないところが少し危ない。出品者が高齢化してやや展示作品が少なくなりつつある。 | | |
| 事業の目的 | 高橋節郎記念美術館の周辺の地区にゆかりのある方々の芸術作品を展示し、当館を交流の場として利用してもらう。 | | |
| 成果目標 | 応募作品をより多く | | |
| 実施場所 | 安曇野高橋節郎記念美術館 | 事業期間 | 展示 平成 29 年 11 月 11 日～26 日 |
| 事業の概要 | 高橋節郎の出身地の北穂高地区の芸術展として、北穂高地区にゆかりのある方、在住の方の作品を展示。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 会議 |
| | 相手側 | 展示者への呼びかけ、展示作品提供 |
| | 市側 | 事務局、展示など |

【実施結果】

| | |
|-----------|-------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 展示作品は例年より多く集まった。 |
| 協働による効果 | より多くの方に出品いただけた。 |
| 課題・改善点 | 地区への周知を心がけ、新たな出品者を募りたい。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|---|--|---|
| 事業の名称 | | 改組新第4回 日展工芸美術長野県入選者展 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 日展工芸美術長野県入選者実行委員会 | | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化振興係 安曇野高橋節郎記念美術館 | | |

展覧会風景

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|---------------------------------|
| 取組の背景・課題 | 展示の場所が展示室ではないところが少し危ない。 | | |
| 事業の目的 | 高橋節郎の顕彰の一つとして、節郎の活躍の場の一つであった日展の入選者で、長野県在住の作家とその作品の紹介をし、工芸美術作品を身近に鑑賞してもらおう。 | | |
| 成果目標 | 円滑な準備と展示 | | |
| 実施場所 | 安曇野高橋節郎記念美術館 | 事業期間 | 展示 平成29年12月19日～ 平成30年3月4日 |
| 事業の概要 | 日展の入選者で、長野県在住の作家とその作品の紹介 | | |

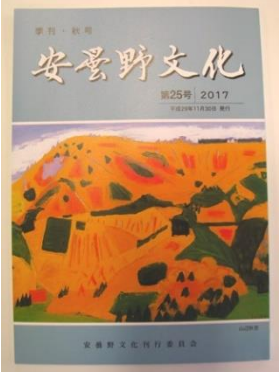
【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-----------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 展示 |
| | 相手側 | 展示者への呼びかけ、展示作品提供、展示作業、作品の運搬 |
| | 市側 | 事務局、作品の撤収、広報物作成 |

【実施結果】

| | |
|-----------|------------------|
| 成果目標の達成状況 | 見学者がより多くいらっしやった。 |
| 協働による効果 | 13作品の方に出品いただけた。 |
| 課題・改善点 | 展覧会の周知方法に課題。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|---|--|---|
| 事業の名称 | | 「安曇野文化」刊行事業 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 () | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野文化刊行委員会 | | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化振興係 | | |

安曇野文化 冊子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-----------------|
| 取組の背景・課題 | 季刊誌「安曇野文化」編集・刊行に伴う事務と編集補助を行う。 課題は執筆者選定と読者の確保が年々難しくなっていること。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野文化の編集・刊行 | | |
| 成果目標 | 年4回発行 | | |
| 実施場所 | 本庁舎・貞享義民記念館 | 事業期間 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 事業の概要 | 季刊誌「安曇野文化」の編集および刊行を行う。市側は編集補助と委員会実施に係る事務手続きを行う。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 編集委員会、刊行委員会 |
| | 相手側 | 編集、刊行、送付、販売促進 |
| | 市側 | 広報活動 |

【実施結果】

| | |
|-----------|-------------|
| 成果目標の達成状況 | 年4回刊行 |
| 協働による効果 | 広く市民に周知ができる |
| 課題・改善点 | 執筆者選定が困難 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 第 13 回早春賦音楽祭 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 早春賦音楽祭実行委員会 | | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化振興係 | | |

音楽祭の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|----------------------------|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 早春賦音楽祭の実行にあたり、事務局運営を協働で行う。 | | |
| 事業の目的 | 早春賦音楽祭 実施 | | |
| 成果目標 | 来園者 15,000 人 | | |
| 実施場所 | 国営アルプスあづみの公園 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | 早春賦音楽祭の実施 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-----------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 実行委員会、事務局 |
| | 相手側 | 事務局 |
| | 市側 | 事務局補佐 |

【実施結果】

| | |
|-----------|------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 来園者 17,100 人 |
| 協働による効果 | 公用車の使用、小中学校への参加を促しやすい。 |
| 課題・改善点 | 業者の業務分担が不明瞭 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野市美術館博物館連携事業 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会 | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化振興係 | |

成果物（一部）

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-----------------|
| 取組の背景・課題 | 公立館と私立館が協働して事業を行う | | |
| 事業の目的 | 市内に点在する美術館・博物館が連携し事業を行なうことで、地域文化振興の核としての役割を果たすこと、また安曇野市としての一体感の醸成に寄与すること | | |
| 成果目標 | 今年度計画した6つの事業の実施 | | |
| 実施場所 | 市内各館 | 事業期間 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 事業の概要 | (1) 体験！夏のミュージアムワークショップ大集合 (2) 安曇野ミュージアムギャラリートークリレー (3) 学芸員研修会事業 (4) 出前展覧会事業 (5) 学校ミュージアム事業 (6) ミニ展示キット | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 実行委員会、専門部会 |
| | 相手側 | 実行委員会、専門部会 |
| | 市側 | 事務局、専門部会 |

【実施結果】

| | |
|-----------|------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 実施済み |
| 協働による効果 | 公私館の連携をとりやすい。小中学校への参加を促しやすい。 |
| 課題・改善点 | 各館が同じ目的・目標をもって事業の推進を図ること。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第 27 回 信州安曇野能楽鑑賞会 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 信州安曇野薪能実行委員会 | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化振興係 | |

能「船弁慶」の一場面

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 平成 3 年に「水郷明科薪能」として開催されたことを契機に、合併後も「信州安曇野薪能」として引き継がれ、例年開催してきた。また平成 28 年度には豊科公民館ホールを会場とし、「信州安曇野能楽鑑賞会」と名称を改めて開催した。名誉市民である故 青木祥二郎師の顕彰事業（現在は子息の青木道喜師が主宰）として、市民が一流の文化芸術にふれる貴重な機会となっている。 | | |
| 事業の目的 | 格調高い能楽公演の実施を通して、安曇野市名誉市民で観世流能楽師として重要無形文化財保持者の栄誉を受けられた故青木祥二郎師（安曇野市明科中川手出身）の業績を顕彰し、安曇野市の芸術文化の向上並びに観光振興を図る。 | | |
| 成果目標 | 観客数 600 人（最大収容人数） | | |
| 実施場所 | 豊科公民館ホール | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | 講演の期日 平成 29 年 8 月 21 日 午後 2 時 ～ 午後 6 時 30 分 【演目・主な出演者】 ● 舞囃子「敦盛」 青木 真由人 ● 能「頼政」 青木 道喜、宝生 欣哉 ● 狂言「寝音曲」 野村 萬 ● 能「船弁慶 重キ前後ノ替」片山九郎右衛門、宝生欣哉 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|--------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 広報、企業への協賛依頼、当日の運営 |
| | 相手側 | 入場券販売、印刷物校正 |
| | 市側 | 補助金交付、各種業務の発注、会計事務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 入場者数 433 人 |
| 協働による効果 | 当事業は、収入面を各企業からの協賛金及び入場券の売り上げに頼っているが、各実行委員の協力により、協賛依頼や入場券販売、また、当日においても役割分担を行い、事業の運営をスムーズに行う事ができた。 |
| 課題・改善点 | <ul style="list-style-type: none">・年々、入場券販売数・協賛件数といった収入が減少しており、事業費の削減や新たな財源の確保が必要である。・実行委員会の構成員が年々減少しており、役割分担など将来的な事業形態を見直し・検討する必要がある。・今後の開催地について検討が必要である。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | あづみのフィルムアーカイブ事業 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他 | |
| 実施団体 | 相手側 | あづみのフィルムアーカイブ | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化財保護係 | |

朗人大学「よみがえる安曇野」上映会

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 市民提案による市制施行 10 周年記念事業として映画「よみがえる安曇野」を制作。その際に、各家庭等に眠る 270 本余りの 8 mm フィルムの提供があったが、すべてのデジタル化はできなかった。また、それ以降、新たに提供を受けたフィルムもあるため、さらにデジタル化を進め、映像史料としての保存活用に努めたい。 | | |
| 事業の目的 | 「よみがえる安曇野」上映会の開催 映像史料のデジタル化を進め博物館等での保存活用を図る | | |
| 成果目標 | 8 mm フィルムデジタル化…24 本／上映会回数（箇所数）10 回以上 | | |
| 実施場所 | 安曇野市内 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 出前講座「よみがえる安曇野」上映会の開催／「ホームムービーの日」の開催 ◎ 新たな 8 mm フィルムの収集（「よみがえる安曇野」上映の際に呼びかける。） ◎ 8 mm フィルムのデジタル化（DVD） | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|-----------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 映像使用等許可関係、上映会の開催、事業報告書の作成 |
| | 相手側 | HP 開設・チラシ作成 フィルムのデジタル化 |
| | 市側 | 広報掲載 フィルム提供関係事務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | デジタル化したフィルム 24 本→30 本 「よみがえる安曇野」上映会開催箇所数 10 箇所→18 箇所 「よみがえる安曇野」年間視聴者総数 500 人→800 人 |
| 協働による効果 | 視聴された皆さんの様子、生の声を聴くことができ、今後の映画制作、映像史料の活用などに活かすことができる。 |
| 課題・改善点 | 8 mm 提供に地域的偏りがある。特に、これまで提供が少なかった地域のフィルム収集に心がける。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 事業の名称 | | 懐かしき安曇野の水のすがた － 移り変わりの記録 － |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | NPO 法人 川の自然と文化研究所 | |
| | 市側 | 教育部 文化課 文化財保護係 | |

木戸橋と犀川の舟下り(昭和初期)

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|--------------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野市の水と水辺に関わる昔の姿とその変遷を映し出す写真を収集してデータベース化し、貴重な地域資源として保存管理するとともに、今後のより良い安曇野の水の在り方、湧水と水辺を生かしたまちづくりに資する資料とする。また、現在これら古写真は散逸や劣化の危機にあるため、早急な対応が必要な時期に来ている。また、古写真の整理・保管・活用については平成 30 年度開館の文書館も視野に整備する必要がある。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野市の水と水辺に関わる古写真を収集しデータベース化し保存活用を図る | | |
| 成果目標 | 水に関係する古写真のスキャンニング 5,000 点／古写真展と講演会開催 | | |
| 実施場所 | 安曇野市内 | 事業期間 | 平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | ◎ 写真整理：収集写真の情報整理表の作成、スキャンニング、展示用写真作成 ◎ 写真展および講演会の開催 ◎ データベース化：収集写真の情報整理結果を用いた検索システムの構築他 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 古写真展・講演会の開催 |
| | 相手側 | 古写真のスキャンニング 収集写真のデータベース化他 チラシ作成 |
| | 市側 | 広報掲載 古写真提供関係事務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | スキャンニング 5000 点→1000 本 写真展・講演会開催→ 写真展 3 月 21 日～ 講演会 3 月 21 日開催 |
| 協働による効果 | 散逸・劣化の危機にある古写真、行政だけでこれらを収集し保管整理するには限界がある。こうした作業を市民団体の協力のもと実施できることは大きい。 |
| 課題・改善点 | 写真展・講演会を機に、一般市民の方々にも古写真に対して関心を持ってもらい、自分の周辺の写真に目を向けてもらいたい。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|---|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野市里山再生計画推進事業 「さとぷろ。」 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他 | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市里山再生計画推進協議会 | | |
| | 市側 | 農林部 耕地林務課 林務担当 | | |

あずみの里山市での安曇野材オークション

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|---------------|
| 取組の背景・課題 | 人の手が入らなくなった里山では、松くい虫被害や鳥獣被害など様々な問題が生じています。このような問題解決に向けて、安曇野市内で生活を営む市民・森林所有者・事業者の皆さんにより、私たちの暮らしを守り、豊かにしてくれる里山の再生への取組を一緒に進めていきます。 | | |
| 事業の目的 | 1. 多種多様な環境から成り立つ里山 2. 多くの人々が里山を資源として利用 3. 災害の少ない安全な暮らしをもたらす里山 | | |
| 成果目標 | 多くの人々が里山に関わり、里山に目を向けること。 | | |
| 実施場所 | 安曇野市内 | 事業期間 | 平成27年度～平成31年度 |
| 事業の概要 | 市民、山林所有者、事業者の皆さんと協働しながら、里山に関心をもってもらうための具体的な5つの取組を進めます。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|---------|
| 役割分担 | 一緒に取組 | 取組の企画運営 |
| | 相手側 | 取組の企画運営 |
| | 市側 | 事務局機能 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 具体的な取組により、少しずつではあるが、里山に関心を持つ市民が増えてきた。 |
| 協働による効果 | 行政的な考えでなく、市民目線の発想により取組が企画運営できること。 |
| 課題・改善点 | 行政主導から市民主体への体制づくり |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第34回早春賦まつり |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 早春賦まつり実行委員会 | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係 | |

合唱の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------|
| 取組の背景・課題 | 日本を代表する叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐとともに、早春賦を愛する心を持つ市内外の人による観光交流人口の拡大を図る。早春賦歌碑を知らない人・興味がない人にもイベントを通じて「早春賦」に関心を持ってもらう。 | | |
| 事業の目的 | 叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐ、観光客の誘客を図る。 | | |
| 成果目標 | 県内外から来場者を集める。「早春賦」を歌い広める。 | | |
| 実施場所 | 穂高川右岸 早春賦歌碑前 | 事業期間 | 平成29年4月29日 |
| 事業の概要 | 小学生・術文化協会コーラス部合唱、アルパクラブ演奏、会場全体による早春賦大合唱。お茶やまんじゅう等のサービス。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|-----------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。 |
| | 相手側 | 当日の運営。 |
| | 市側 | 各種申請・手配。出演者・関係団体との調整。 |

【実施結果】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 毎年訪れるリピーターがいる等、深い関心を持っている来場者も多い。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの来場者に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 会場が狭いため、安全な開催に努めたい。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第3回 信州安曇野ハーフマラソン事業 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 信州安曇野ハーフマラソン実行委員会 | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係 | |

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野の魅力を発信し、交流人口の拡大を図るとともに、地域経済の活性化を図るため、全国からランナーを募集するとともに、市民や事業者、行政等が一体となった運営体制を構築する。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野の豊かな自然やそこに暮らす温かい人々の魅力を発信するとともに、市の一体感の醸成と地域経済の活性化を目的とする。 | | |
| 成果目標 | 全国から参加するランナーに安曇野の自然や人の魅力を感じてもらい、安曇野ファンを獲得するとともに、市民についても大会運営への参画や応援を通じ、地域に対する誇りと愛着を持っていただく。 | | |
| 実施場所 | 豊科南部総合公園 | 事業期間 | 平成28年10月～平成29年9月 |
| 事業の概要 | 拾ヶ堰や安曇野の田園地帯をコースとして、ハーフマラソンを実施する。安曇野ならではの食の提供などでランナーへのおもてなしを実施するとともに、市民についても運営ボランティアや応援などに参画していただく。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|-----------------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | ランナーへのおもてなし、ボランティア募集、大会PR、協賛金募集など |
| | 相手側 | 事業者との調整など |
| | 市側 | 大会運営全般 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 大会参加者の満足度も高く、500名を超える市民がボランティアに参加した。 |
| 協働による効果 | 双方が責任を持って自身の役割を果たすことにより、参加者に対しきめ細かな対応ができ、満足度の向上につながった。 |
| 課題・改善点 | 準備段階において、更なる情報交換・意見交換が必要である。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第33回 信州安曇野あやめまつり |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | あやめまつり実行委員会 | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係 | |

メインイベント会場のあやめ

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|---------------|
| 取組の背景・課題 | 旧明科町から続くイベントで、5年前より市が観光協会から引き継ぎ実施している。花の管理とイベントを総合的に考え、更なるイベントの充実・交流人口の拡大が課題である。 | | |
| 事業の目的 | 水郷明科のあやめの魅力を広く伝え、永く後世に残すとともに、市内外からの誘客による交流人口拡大を図る。 | | |
| 成果目標 | 多くの人に来ていただき、交流人口の拡大・経済の活性化を目指す。 | | |
| 実施場所 | あやめ公園・龍門淵公園 | 事業期間 | 平成29年6月9日～19日 |
| 事業の概要 | 明科のあやめ公園、龍門淵公園を主会場とし、様々なイベントを実施した。メインイベント日には『こてつ』『パラレルドリーム』のライブを開催し、小中学生、高校生の吹奏楽や明科高校書道部の書の披露、にじますのつかみどりなどを行った。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | イベントの企画・運営 |
| | 相手側 | イベントへの参加 |
| | 市側 | 会場の設営・広報・庶務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 前回と同じ程度の集客数であった。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 更なる発展に向け、協働の体制を強化していくこと |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第34回 信州安曇野わさび祭り |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 信州安曇野わさび祭り実行委員会 YOSAKOI 安曇野実行委員会 | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係 | |

YOSAKOI 安曇野の演舞

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|--------------|
| 取組の背景・課題 | 旧穂高町から続くイベントで、市民一体感の醸成や交流人口拡大のため実施している。納涼祭と YOSAKOI 安曇野の2日間で構成しており、更なるイベントの充実・交流人口の拡大が課題である。 | | |
| 事業の目的 | 穂高の夏のイベントとして定着してきた『信州安曇野わさび祭り』を通じて、観光客の誘客による交流人口の拡大を図るとともに、地域一体感の醸成を図る。 | | |
| 成果目標 | 多くの人に来ていただき、交流人口の拡大・経済の活性化を目指す。 | | |
| 実施場所 | 穂高会館 | 事業期間 | 平成29年8月5日～6日 |
| 事業の概要 | 穂高地域の夏を盛り上げるイベントとして、1日目に納涼祭、2日目に YOSAKOI 安曇野を実施した。今年は会場を穂高会館へ変更して開催した。納涼祭では、分館連を中心に31連、約2,200名が穂高音頭・HOTAKA サンバを踊った。2日目の YOSAKOI 安曇野では、24チーム、約1,000人が参加し、よさこい踊りを披露した。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | イベントの企画・運営 |
| | 相手側 | イベントへの参加 |
| | 市側 | 会場の設営・広報・庶務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 会場を変更して開催。多くの方に来場していただき安曇野の夏を盛り上げた。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 更なる発展に向け、協働の体制を強化していくこと |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 第 11 回安曇野花火 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野花火実行委員会 | | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係 | | |

安曇野花火打ち上げの様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 旧 5 町村が合併したことをきっかけに、市民の一体感の醸成と市の振興を目的に商工会青年部などが中心となり開催。年々規模が大きくなっており、安全面や運営方法について検討が必要。 | | |
| 事業の目的 | 市民の一体感の醸成と、郷土の振興を目的とする。 | | |
| 成果目標 | 安曇野花火を通じた観光交流人口の拡大。 | | |
| 実施場所 | 明科御宝田遊水池周辺 | 事業期間 | 平成 29 年 8 月 14 日 |
| 事業の概要 | 花火の打ち上げ | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。 |
| | 相手側 | 各種申請、関係団体調整。 |
| | 市側 | 各種申請、関係団体調整。 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 安曇野の夏を代表するイベントとして定着しており、大きな誘客効果がある。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 市と実行委員会の役割を明確にし、より安全な大会運営を行う。 会場規模・立地が限られており、需要拡大の対応に限界がある。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 第 49 回 安曇野観光草競馬大会 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野競馬愛好会 | | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係 | | |

ポニーレースの様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 草競馬大会を開催することで動物とのふれあいの機会を設けるとともに、観光交流人口の拡大を図る。昼頃に行われる子ども向けアトラクション目当ての地元の来場者が多く、市外からの来場者の誘客性が弱い。 | | |
| 事業の目的 | 動物とのふれあいの機会を設けるとともに、観光交流人口の拡大を図る。 | | |
| 成果目標 | 全国でも珍しい草競馬大会を通じ、観光交流人口の拡大を図る。 | | |
| 実施場所 | 市営牧運動場 | 事業期間 | 平成 29 年 9 月 24 日 |
| 事業の概要 | 競走馬、ポニー、中間馬などによる予選レースや決勝レース、ポニー乗馬体験、小動物ふれあい広場の設置 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。 |
| | 相手側 | 各種申請、関係団体交渉。 |
| | 市側 | 各種申請、関係団体調整。 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 実行委員会で分担・協力して安全に開催ができた。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 市内・市外での認知が低く、来場したくなるような企画・宣伝等を検討する。会員が減少しており負担が大きくなっているため、会員増を図る。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | ご当地グルメ事業 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（メニュー開発） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野調理師会、安曇野市商工会 | | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当 | | |

安曇野林檎ナポリタン、あづみの夏野菜カレー

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | <p>安曇野林檎ナポリタンは市、安曇野調理師会、安曇野市商工会飲食分科会、松本大学矢内研究室等の協力により平成 25 年に開発したご当地グルメ。安曇野産林檎の PR も行っている。</p> <p>あづみの夏野菜カレーは、信州デスティネーションキャンペーンに合わせ新宿中村屋協力のもと、安曇野調理師会とともにメニューを開発し、安曇野市商工会加盟店舗において期間限定で提供した。</p> | | |
| 事業の目的 | ご当地グルメの開発、提供及び振興 | | |
| 成果目標 | 飲食店での安曇野林檎ナポリタン及びあづみの夏野菜カレーの提供 | | |
| 実施場所 | 市内各所 | 事業期間 | 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 |
| 事業の概要 | 参加店の勧誘、PR チラシの作成、グルメ大会等への参加等 PR 活動 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|----------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 事業全般 |
| | 相手側 | 事業の企画・運営 |
| | 市側 | 資料作成・広報 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 安曇野林檎ナポリタンは市内外 14 店舗にて提供、過去最高となった。あづみの夏野菜カレーは市内 16 店舗にて提供、2400 食を完売した。 |
| 協働による効果 | 事務作業、役割分担による効率化 |
| 課題・改善点 | 認知度の向上 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 信州安曇野北アルプスパノラマ銀座 山岳フェスタ |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市山岳観光推進実行委員会 | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当 | |

アウトドアブランドによる展示販売

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-----------------------|
| 取組の背景・課題 | 平成 26 年「信州山の日」、平成 28 年国民の祝日「山の日」施行を受け、山岳観光振興の一層の推進を図っていく事業の一つとして企画。 | | |
| 事業の目的 | 北アルプスパノラマ銀座の魅力を多くの皆様に知っていただく。 | | |
| 成果目標 | 北アルプスエリア（山岳・平地）の魅力発信、登山客層の底辺の拡大。 | | |
| 実施場所 | 安曇野スイス村 サンモリッツ | 事業期間 | 平成 29 年 5 月 13 日～14 日 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション、各種講座・アウトドア用品の展示販売 ・映画上映・写真展・山岳観光関係団体 PR ブース・各種企画 | | |

【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 運営 |
| | 相手側 | パネルディスカッション・PRブース |
| | 市側 | 運営全般 |

【実施結果】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 2 日間で 4,000 人余の幅広い年齢層の方に参加いただいた。 |
| 協働による効果 | それぞれの立場で知識、人脈、ノウハウを活かすことができた。 |
| 課題・改善点 | 継続性、地域の特色、広域的な取り組み。 |

発行日：平成 30 年 3 月 30 日

編集・発行：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課
まちづくり推進係（本庁舎 2 階 4 番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176